

MONTO

岩手県立大学総合政策学部ニュース●第23号 2010.4.6

《総合政策学部 HP》 <http://www-poly.iwate-pu.ac.jp/>

特集●学生の通学事情



キャンパス春景色



通学風景—自転車



滝沢駅の停車中の様子



盛岡駅前のバス



キャンパス&ライド



花の中を行くIGR



通学風景—徒歩



通学路の桜並木



キャンパスのバス停

CONTENTS

特集●学生の通学事情

おじゃまします

田島平伸ゼミ / 佐藤利明ゼミ

研究最前線

斎藤 千加子

New Intelligence

伊藤英之准教授

学部ニュース

台温泉プロジェクト

金ヶ崎地域づくり大学

弓道場完成

平成21年度卒業式

就職状況

風のモント達

数理の世界

「クレジットカードの

リボルビング払い③」

人事異動

キャンパス周辺散策

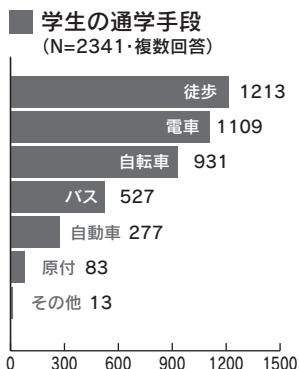
「賢治の愛した風景」



雪灯りの電飾

特集 ● 学生の通学事情

学生の通学状況



県立大学は都市の中心から少し離れた場所に位置しているが、交通手段には比較的恵まれていて、大学から十分余りのところにいわて銀河鉄道滝沢駅があり、上下合わせて約八〇分以上通っている。バスは岩手県交通、岩手県北バスが平日は一〇〇分以上通っている。また大学構内には広い駐車場、駐輪場があり、自動車等での通学も容易である。学生の通学手段は図に示すとおりである(出所: 大学事務局調べ)。複数回答のため徒歩が最も多いが、主な交通手段を考えると電車、バス、自転車である。自動車の割合が比較的低いが、駐車場の駐車台数を見ると実態はこれより自動車通学が多いと思われる。

私は盛岡市みたちから大学まで約八キロの距離を二〇分かけバイクで通学しています。まずバイク通学のメリットは経済性にあると思います。自動車やバス・電車通学と比べると交通費はかなり抑えられます。また公共交通機関と違い時間的に制約を受けなくて済むため、時間を有効に使うことができます。逆にデメリットは天候に左右されてしまうことです。バイクは自動車などと違い、体を守ってくれるものが無いので、雨風などの環境下では直接体に影響を受けます。非常に危険で少し事故の可能性も高まります。



そこで事故を防ぐ意味でも、大学で講習会のような場を設け、交通規範等の指導を行うような取り組みを行うことも必要ではないでしょうか。良い点と悪い点、両方ありますが経済的に車を持つことが難しい学生にとって、バイクは便利な通学手段であると思います。



バスは事故などの心配が自動車の運転よりも少ないところが良いところですが、本数が少ないことや、最終電車が早く終わってしまうことがデメリットだと思います。せめて最終電車が、もう少し遅い時間になれば、と思うこともあります。

私は盛岡市みたちから大学まで約八キロの距離を二〇分かけバイクで通学しています。まずバイク通学のメリットは経済性にあると思います。自動車やバス・電車通学と比べると交通費はかなり抑えられます。また公共交通機関と違い時間的に制約を受けなくて済むため、時間を有効に使うことができます。逆にデメリットは天候に左右されてしまうことです。バイクは自動車などと違い、体を守ってくれるものが無いので、雨風などの環境下では直接体に影響を受けます。非常に危険で少し事故の可能性も高まります。

私は滝沢村野沢に住んでおり、大学までの距離はだいたい一キロくらいです。通学時間は徒歩の場合は、二〇分程度で、自転車の場合は五分もあれば大学につきます。

電車通学では一時間二〇分くらい、自動車通学では夏だと三〇分、冬は四〇分くらいかかります。電車から自動車に替えたのは三年生になってからです。授業中心の二年生までは時間が規則的でした。三年生になって卒業論文で実験を始めるようになり、時間が不規則になったため自動車通学に替えました。自動車は自分の予定で行動できることや、短い時間で行き来できることが魅力です。

盛岡市上堂にある自宅から大学まで、バスを用いて通学しています。大学までは、早いときは二〇分、遅いときはその倍ほどかかることもあります。



私は滝沢村野沢に住んでおり、大学までの距離はだいたい一キロくらいです。通学時間は徒歩の場合は、二〇分程度で、自転車の場合は五分もあれば大学につきます。



盛岡市上堂にある自宅から大学まで、バスを用いて通学しています。大学までは、早いときは二〇分、遅いときはその倍ほどかかることもあります。

バイク通学

三年 今野悠人

自転車・徒歩通学

三年 田中俊久

自動車通学

四年 佐藤綾佳

バス通学

三年 住吉未佑

今回の特集は学生の通学です。電車、バスなどの公共交通機関や自動車、原付、自転車、徒歩など通学手段も様々です。郊外に立地する県立大学キャンパスですが、公共交通は比較的便利といえます。環境問題、健康、経済的にも自家用車を使わない通学が求められています。公共交通利用で生活リズムが出たとの声も聞きます。元気に通う当大学生の通学事情を見てみましょう。

キャンパス&ライド社会実験



レンタサイクルの自転車

なお、IGRいわて銀河鉄道が始めた学生用の一年間有効の定期券販売は、この実行委員会で議論されていたものです。

自動車から公共交通への転換を促す方法の一つとして、電車やバスの乗り換え案内システム「キャンパスライドロジック」を試験稼働しました。

このシステムは、盛岡駅など主要地点から大学へ向かうバスなどの公共交通の時刻表を、運行事業者や乗り物の種類を問わず、目的の地に検索できるものです。

従来は、同じバス路線でも会社や異なれば時刻表も別々ですが、会社が異なるバスでも同一の画面に時刻表が表示され、パソコンや携帯電話から無料で利用できます。

検索できる路線が少ないなど利用者からの不満も聞かれましたが、今後の改良でより使いやすいシステムを目指していきたいと思っています。

(本学部助手 宇佐美誠史・博士前期課程二年 武藏一真)

自動車交通が圧倒的優位に立つ本学滝沢キャンパスにおいて、少しでも自動車を減らそうという減クルマに向けた取り組みとして、レンタサイクル事業や公共交通の乗り換え案内システム「OFFFデー」などを核としたキャンパス&ライド社会実験を二〇〇九年一〇月から一二月に実施しました。この社会実験に当たって、県立大や盛岡大学の学生、教職員などによる実行委員会を組織しました。その中で、事業内容や公共交通利便性向上などについて学生を中心に議論が交わされました。



乗り換え案内システム

電車通学

二年 岩崎みなみ

私は、県立大学より直線距離で三〇キロくらい離れたところにある矢巾町に住んでいます。矢幅駅からJR東北本線を使い盛岡駅まで行き、IGRに乗り換え滝沢駅へ。滝沢駅から学校までは歩いていきます。所要時間は約二時間かかります。この通学方法が最も安いため、この通学方法を続けています。

電車通学していると、時間に制限されてしまうことや乗換えなど待ち時間があることなど、不便を感じることは多くありますし、通学に二時間も要してしまうのは、時間の無駄と感じることもあります。

しかし、電車の中で人間観察をしたり、物思いにふけったり、たまたま遭遇した友人と話したり、時間に追われているときでも、電車に乗っている時間は、ふと休憩できるタイミングであると思うので、私の中でこの時間は意外と重要だと思っています。また、IGRの車窓から岩手の四季の移り変わりを眺めることができるのは、電車通学をしていてよかった点であり、県立大学を選んでよかった点でもあります。



公共交通事業者から

IGRいわて銀河鉄道

IGRいわて銀河鉄道では、岩手県立大学の最寄駅である滝沢駅を含め、盛岡駅から目時駅まで八二キロを運行しています。日頃の徹底した安全管理の元、開業以来無事故を継続しています。渋滞による遅刻の心配が無く、雪道を運転する不安もありません。遅れが発生した際も、モバイルIGR (<http://www.igr.jp/mobile/>) で運行情報を確認できます。

また、当社では通学にオトクで便利な学年定期券「Campass」の発売を二〇一〇年四月に開始しました。最大約33%割引でお財布にも優しいです。詳しくはホームページ (<http://www.igr.jp/>) か、Campass事務局 (TEL019-323-9802 平日8:30~17:30) でご確認下さい。

当社では皆さんが便利で快適な学生生活を送れるようサービスを展開しています。県立大への通学はIGRでどうぞ！



岩手県交通

日頃、県交通バスをはじめ公共交通機関をご利用いただきありがとうございます。岩手県交通は盛岡エリアにおいて95%を超える路線バスのシェアを持っており、県立大学へは盛岡中心部からの路線のほか、盛岡市松園地区やイオンモール盛岡へも路線を結んでいます。路線バスをご利用される際は岩手県バス協会で提供しています携帯電話等で簡単にバスの時刻や位置がわかるバスロケーションシステムをご利用ください。このほかバス協会では通学用バス、鉄道マップも作成しましたのでご利用ください。

県交通では世界遺産登録を目指す平泉の文化遺産を応援する寄付金付きバスカードを発売しています。バスカードの購入で気軽に平泉を応援できるものです。尚、四月以降バスカードは発行元であるバス会社でしかご利用できませんのでご注意ください。そのほか東京、仙台へも格安の高速バスを運行しておりますので、県交通のホームページをご覧ください。



おじやまします

田島平伸ゼミ



現場で体感することで地域の課題が見える

政治学者として、この一〇年は特に市町村合併に注力してきた田島教授。県内自治体の研究会や審議会メンバーを数多く務め、各地の実態や課題を見つめてきた。そんな田島教授の元に集うのが、小松良太さん、外館隆志さん、刈間澤優香子さん、菅原麻子さん、中村渚さん、八重樫衣里さんの三年生六人。公務員を目指してともに頑張る仲間たちだ。ゼミではテキストの読み合わせも当然行うが、基本は現場主義の田島教授。関わって長い田野畑村には、総合計画の前段階である地区計画づくりのワークショップから「お祭りにも出かけて神輿も担がせた」というほど濃密なフィールドワークを提供。その土地の苦しさや課題を具体的に感じられたと思う」と語る。各自の研究テーマに花巻市や奥州市、滝沢村など出身地に関するものが多いのも、自分の生まれた場所をもっとよく知りたいという気持ちが生み出したものかもしれない。それにしてもこの六人、とにかく元気で物怖じする気配もない。「このゼミは人とのコミュニケーションができれば話にならない」と田島教授がいえば「自由にやらせてもらえる」「先生が愉快だから」と声が高がる。果たしてこれは田島ゼミで鍛えられたのか、それとも元々の素質なのか？

佐藤利明ゼミ



卒論はひとつの仕事。オリジナリティが大事

社会学は間口が広いといわれる。しかし佐藤教授のゼミの場合、卒論テーマは伝統芸能から化けギツネ（!?）等々なんでもござれ。「色々あって構わないし楽しい」と佐藤教授は懐深く受け入れる。今回も地域活性を建物から検証する阿部樹さんに、地熱発電を選んだ鈴木岳さん、環境ボランティアで進めた田村涼介さん、新興地の地域連携を研究した菊川由里江さんと、これまた見事にバラバラである。「佐藤先生の元だからまとめられたと思う」と、田村さんは信頼をにじませ振り返る。「テーマもデータもオリジナルであるべし。到達点が明確なぶん、佐藤ゼミの『準備運動』は念入りだ。最初の輪読では「考えることが大事」と一字一句読み解かせ、その上でテーマを自力で探させる。個別指導では情報を得るためのヒントを与えるのみ。見えるまでが大変。でもとにかく考え続けた」と菊川さんはいう。「卒論は一人ひとりの仕事だから」と佐藤教授は考えている。そんな佐藤ゼミのキーワードは「一方任主義」。あえて「一方」の字なのには、色々な方向があるという意味なのだとか。「こんなに何でも出来るのは、きつと先生自身の興味が広いからと思う」と四人は笑う。ちなみに下級生には「歴史女」がいるそうだし...

研究最前線

住民が行政にもの申す —原告適格を左右するもの—

斎藤 千加子



昨年10月1日、広島地裁にて鞆の浦架橋訴訟の判決が言い渡され、鞆港の埋立免許の差止めが命ぜられた。この訴訟は、世界遺産級とされる広島県福山市の鞆の浦に道路橋を作るため県と市が港の埋立てを計画したことに対し、2007年4月反対派住民が埋立免許の差止めを求める訴訟を同地裁に起こしたもので、裁判では景観利益の成否が焦点となった。景観をめぐるのは2005年に国分寺景観訴訟で住民・業者間に和解が成立し、その翌年には国立マンション訴訟で最高裁が景観権を初めて認めて注目された（但し原告敗訴。この事件には別の訴訟あり）。今回地裁が免許の差止めを命じ、その理由は「慎重な政策判断がない限り計画は不合理」であり、「侵害された景観利益は事業が完成すれば復元が不可能」だからとされたことで、景観保護推進派は大きな一歩を進めた。

この訴訟は行政事件訴訟法3条7項に規定される行政訴訟の一種で、住民原告が県を被告として県知事が発する免許の差止めを請求内容とする（ここでは行政差止めの訴えと呼んでおく）。一方違法部分の撤去を求めた国立、建設差止めと原状回復を求めた国分寺は民事訴訟である。即ちこれらの被告は事業者であり、実際の建設工事の阻止や原状回復が訴訟の目的だが、今回は事業の前提たる免許付与行為自体の阻止が目的である。裁判所が判決をもって免許差止めを命ずれば、県知事は控訴等をして上級裁判所から別の判断をもらわない限り判決に拘束されるところに今回の訴訟と判決の特別の意義がある。今回も工事の（民事）差止め、工事開始後は原状回

復または慰謝料請求等の民事訴訟が考えられ、また免許後の取消訴訟という行政訴訟も可能だが、行政差止めの訴えが最善の選択だろう。なぜなら大規模公共事業という性格上その着手後は原状回復が困難で、また民間事業と異なり公共事業においては事業の大元に位置する行政自身が行政訴訟判決によりレッドカードを突きつけられ再考を余儀なくされる事態こそが、根本解決への早道だからである。

公共工事等において、行政が与える開発許可等に基づき工事等が行われると周辺住民に種々の被害が出るとしても、許可等の行政行為からするとあくまで第三者の立場でしかない。第三者が他人に向けられた行政行為に否を言うためには、その行政行為の根拠法等に第三者の法律上の利益の保護が盛り込まれていることが必要である。根拠法に周辺住民の保護や環境への配慮をうたったものは多いが抽象的な文言にとどまるため、行政行為に基づき工事等がなされると生命・身体への重大な危険の可能性がある時に限って裁判所は第三者の原告適格を認める傾向であったが、今回は公有水面埋立法の抽象的な文言の対象に住民の景観利益も含まれるとしてこれを法律上保護された利益とみなし、原告適格を認めたのである。

但し広島地裁は歴史的景観の保持という特別な価値を読み込んで景観を法的利益と解したともれ、その価値が免許の違法性という実体判断にも影響している可能性があることから、判決の射程距離はやや限定的と思われる。

(本学部准教授・行政法)

火山や自然災害のメカニズムを研究 楽しい実験で防災意識を啓発する

伊藤英之准教授

◆プロフィール

新潟大学理学部地質鉱物学科、同大学院理学研究科、積雪地域災害研究センター研究生を経て、平成3年より財団法人砂防・地すべり技術センター。途中、国土交通省国土技術政策総合研究所危機管理技術研究センター出向を経て、平成21年10月より本学。2000年有珠山噴火や三宅島噴火対応、JICA 専門家派遣(ベネズエラ共和国)など、自然災害とその対応計画調査などに従事。理学博士(北海道大学)



日本は火山国といわれるが一〇八の活火山から海底火山や北方領土をのぞいた八六ヶ所のうち、五〇にも近い山が北海道や九州などの日本周縁部に集中する。ここ東北だけでも岩木山や秋田駒ヶ岳、岩手山と主峰の多くが活火山だ。これら火山と防災の研究として、昨年一〇月に赴任されたのが伊藤英之准教授。調査対象は全国に及び、数多くの火山ハザードマップ作成や噴火危機対応計画策定に従事、また阪神淡路大震災などの現地対応や復興支援などにも携わった火山噴火と危機管理のスペシャリストである。

そもそも火山学は地球科学の一分野だが、同じ火山学の中でも様々なアプローチがある。たとえば地震計やGPSなどの観測機器から、火山内部の構造や短期的な噴火予知を行う物理学的アプローチと、火山を歩き回り、噴出物の性質や化学組成などから、噴火の癖を検討し、中長期的な災害予測に貢献する地質学的アプローチなどがあり、ハザードマップは地質学的アプローチで作られることが多い。伊藤准教授は後者を専門としているが、マップは一度作成したら終了というものではないという。

「むしろ大事なものはその後。研究成果を地域防災へ繋げていくため、住民にハザードマップを理解してもらう方法を探します。なにより子どもたちが将来の災害時、自らを守るテクニックを身につけられてこそ研究なんですよ」。

そんな伊藤准教授が力を入れるのが防災教育というのには納得だが、これが実に楽しい。例えば過日の授業ではコーラに発泡菓子を投入して噴火メカニズムを表し、別の日にはアイスクリームとメープルシロップで火山泥流を再現実験、教室内は大盛り上がりだったとか。この食品を使った実験は、伊藤准教授が秋田大学の林信太郎教授らと五年前から取り組んできた研究であり、現在は「世界一おいしい火山の本」(林教授著)の名で出版され、授業に取り入れる学校も増えている。

新天地岩手での生活も半年。基礎演習でもコンビニ弁当のフタを利用して山岳地の3D地図を作らせるなど、実験同様に頭と手をフル活用する授業を展開している伊藤准教授。四月から始まる卒論ゼミでも、新実験の考案など学生の発想力に挑むべくアイデアを構想中だ。もちろん自らの研究活動でも、さまざまなアプローチを試みている。

「岩手では津波や地震に伴う土石流や地すべり、崖崩れなど自然災害全般を見ていくつもり。災害に対し行政は『怖いもの』という啓発をしますが、刺激に慣れてしまえば効果が弱くなる。それよりも自然との共生という視点から営みやメカニズムを理解できれば、災害時の被害も最小限にできるようにと考えています」。

伊藤准教授の根底にあるのは、恩師からの「アカデミズムに浸るな」との一言だという。

「災害が発生すればデータが累積され、確かに科学は進む。でも学問に浸り切らずに地域にも目を向ける、『山のホームドクター』になれということ。岩手県には防災の専門家は少ないですが、各先生と協力すれば色々な事象に対応していけるはず。そう、岩手のホームドクターになれればいいなと思っています」。

学部ニュース

台温泉プロジェクト



風情豊かな台温泉

県立大学総合政策学部の二年生から四年生まで総勢一五名が、花巻市の台温泉地区に、平成二一年四月から七ヶ月間におたり、地域資源を活用した観光誘客に向けた研究プロジェクトに参加しました。台温泉は花巻温泉の奥部に位置する岩手県でも最も古い歴史を誇る、自然に囲まれた風情豊かな温泉地です。しかし、温泉地間の競争が激しくなった結果、宿泊客は減少の一途をたどり、空き店舗や空き旅館も目立つなど、衰退傾向が露わになっています。旅館や商店の経営に携わる方々の高齢化、後継者難が追い打ちをかけるようになり、建造物をはじめ老朽化が待ったなしの状況に至っています。こうした状況を打破すべく、地元の旅館・飲食店の事業者、近隣の地域資源の担い手のみなさん、行政機関のみなさんとともに、県立大生が立ち上がりました。

大学生による地域活性化プロジェクトへの参画という点、オプザパーとして当事者や専門家の意見や仕事を聞き取り、試行や体験を通じてアンケートやインタビューに回答するといった形態を想像しがちですが、今回は、学生もアドバイザーの一員として、地元や関係のみなさんからの期待に応えて、



プロジェクトの一幕

時に彼らをリードしながら、建設的な意見を数多く挙げてきました。

プロジェクトは平成二一年一〇月一四日をもって一区切りをつけることになり、七ヶ月間の活動の成果として、温泉郷の自然景観の整備、各事業者から取材した情報のメール発信、地域食材を活用した新メニューの提案というかたちで報告会を行いました。プロジェクトの様子はTVでもたびたび取り上げられ、最後はドキュメンタリー番組を制作していただくにも至り、参加した学生の奮闘ぶりは、広く県民のみなさんからの高い評価と共感を呼ぶことにもつながりました。しかしながら、台温泉での取り組みは、まだ緒にのたばかりです。立案したアイデアをさらに具体化して、地元のみなさんに実行を促したり、行政や地域社会に働きかけを行っていくことが求められています。参加学生はまた、この活動を通じて、地域振興ばかりでなく、住民自治活動や地域コミュニケーション活動の意義や難しさや、行政の仕事の役割や誇り、やりがいなど、長期間にわたる関係者のみなさんとの交流を通じて多くのことを学びました。

(山本健 本学部講師)

「岩手地域づくり大学・かねがさき校」の3年間

岩手県立大学大学院総合政策研究科公共政策特別コースが、金ケ崎町と金ケ崎町中央生涯教育センターの協力をえて、二〇〇七年に、「岩手地域づくり大学・かねがさき校」を設置、開校して三年が経過しました。

目的は、地域づくりにおける協働についての理解とその手法を習得することによって、行政と地域住民の双方において協働の担い手を養成することでした。公共政策特別コースにとっては、大学院生がファシリテーターとして参加することによって、政策マーケティングについての知識を習得するとともに、その実践の場でした。

二〇〇七年度には、本学部教員による講義と地域づくりのための政策マーケティングワークショップをあわせて一四回行いました。ワークショップには、各自自治会の代表が、毎回、百名以上参加して、地域課題の発見、地域課題等の重要課題チェック、指標づくり、ロジック・モデルの作成などを行いながら、地域づくりのための基礎と実践手法の習得につとめました。その成果のいくつかは、地域協働支援事業として採用され、実施されました。



ワークショップの様子

二〇〇八年度には、前年度の成果をふまえ、自治会ごとに、「地域づくり計画」の策定に取り組みました。自治会の代表の皆さんは、ワークショップを通して、地域の現況と課題、地域の将来像、地域づくりの将来像と基本方針、施策一実施期間・役割分担、重点プロジェクトの行動計画について検討しました。これによって、より具体的などころから、短期、中期、長期的に地域を展望することができました。

二〇〇九年度には、(金ケ崎町「生涯教育の町」宣言三〇周年大会)の開催にあわせて、自治会ごとに「地域づくり計画」のポスターを作成しました。ポスターは、大会会場に展示され、住民のみなさんに紹介されました。

三年にわたって行われた「岩手地域づくり大学・かねがさき校」の試みは二〇〇九年度をもって終了しましたが、その間に、金ケ崎町の住民の地域力は着実に付いてきたように思います。地域主権が叫ばれるなか、主権の担い手である住民の地域力は、このような地道な活動があつてはじめて強化されるのではないかと思います。

二〇〇九年度には、「岩手地域づくり大学・かねがさき校」のほかに、「岩手地域づくり大学・たのはた校」を開校しました。これには、田島ゼミの三年生が参加しました。機会があれば、どこかでまた「岩手地域づくり大学」を開校して、学生も交えて、地域の皆さんとともに、地域がかかえている課題や問題について考えたいと思っています。

(本学部教授 齋藤俊明)

二〇〇九年度、岩手県立大学滝沢キャンパス内に弓道場が完成し、弓道部の皆さんは練習に一層励んでいます。多数の弓道経験者を含む六六名の部員を誇り、女子部が二〇〇七年度に東北二部リーグに昇格するなど、弓道部はかねてから各種大会で優秀な成績を収めてきました。しかし、大学内に弓道場がなかったため、これまで屋外での練習を強いられていました。前弓道部部长を務めた総合政策学部三年の佐藤寛之さんによると「弓具は水に弱く、小雨が降っただけで練習に支障をきたし、中止せざるを得ないときが多かった。また、冬は凍った地面にぶつかつた矢が破損する恐れもあり、思うように練習できなかつた」とのことです。弓道場の完成は悲願とも言えました。

そこで、岩手県立大学開学十周年記念事業として、同窓会・後援会などの支援を受けながら、ついに二〇〇九年六月に弓道場が完成しました。佐藤さんは「二〇〇八年には残念ながら女子部も三部リーグに落ちてしまった。せつなく弓道場ができたので、後輩たちには女子部の二部リーグ復帰および男子部の上位リーグ進出を目指して頑張つて欲しい」と語つてくれました。

弓道場完成



練習をする弓道部員

三月三日(火)に学位授与式が盛岡市民文化ホール(マリオス)にて行われました。学部四年生の小原啓士さん、博士前期課程二年の武蔵一真さんが、それぞれ総代として中村慶久学長から学位記を受け取りました。

その後、岩手県民情報交流センター(アイーナ)八階に場所を移し、学部・研究所の学位記伝達式が行われました。卒業生は緊張の面持ちながら、小針司学部長から一人ひとり学位記を受け取りました。

ご父母や教職員が見守るなか、学位記伝達式で卒業生代表として挨拶をした太田好乃さんは「私たちが飛び込んでいく社会には様々な選択肢があるために、多様な視点が必要になってきます。学部で培ってきた多角的な視点を活かしながら、自ら選択した進むべき道に後悔しないようにしたい」と述べていました。

学位記伝達式後にみせた卒業生の笑顔は在籍時のがんばりの裏返しのような気がしました。卒業生のみなさんのお祈りいたします。

平成21年度卒業式



学位記を受け取る卒業生

平成二一年度の就職戦線は、一昨年度からの金融問題から始まつた実体経済の不利の影響を受け、年度当初から立ち上りの遅いものであり、四月、五月までに決まっていなかった学生が秋以降もなかなか内定を取れない状況が続き、現在、平成二二年生三月一八現在、本学部四年生の就職希望者九八名中八六名が内定しており、内定率は八七・八%となっています。

大手では、J R東日本、J Pかんぽ生命、J P郵便局、第一生命、東京海上日動などに決まっています。県内・近郊の企業では、岩手銀行、北日本銀行、東北銀行、ワイズマン、薬王堂、七十七銀行などに採用されています。

業種別では、金融・保険業が一六名で最多となっています。以下卸・小売業一三名、公務員二名、情報通信業一〇名、が続く。公務員一・二名の内七名が県内の岩手県庁、盛岡市、盛岡広域事務組合、北上市、奥州市、八幡平市、釜石市、九戸村に決まっています。

二二年度の就職活動は既に始まっていますが、昨年度に引き続き、製造業などで事務系の新規採用者数を控える企業もあり、厳しさが続いています。

(就職委員会)

就職状況

●業種別の就職内定状況
平成22年3月18日現在

業種	就職者数
製造業	4
電気業	1
情報通信業	10
運輸・郵便業	4
卸売・小売業	13
金融・保険業	16
不動産業	1
サービス業	8
飲食・宿泊業	3
教育・学生支援業	5
医療・保健衛生	1
複合サービス業	8
公務(うち岩手県内7)	12
合計	86

平成二一年度の就職戦線は、一昨年度からの金融問題から始まつた実体経済の不利の影響を受け、年度当初から立ち上りの遅いものであり、四月、五月までに決まっていなかった学生が秋以降もなかなか内定を取れない状況が続き、現在、平成二二年生三月一八現在、本学部四年生の就職希望者九八名中八六名が内定しており、内定率は八七・八%となっています。

大手では、J R東日本、J Pかんぽ生命、J P郵便局、第一生命、東京海上日動などに決まっています。県内・近郊の企業では、岩手銀行、北日本銀行、東北銀行、ワイズマン、薬王堂、七十七銀行などに採用されています。

業種別では、金融・保険業が一六名で最多となっています。以下卸・小売業一三名、公務員二名、情報通信業一〇名、が続く。公務員一・二名の内七名が県内の岩手県庁、盛岡市、盛岡広域事務組合、北上市、奥州市、八幡平市、釜石市、九戸村に決まっています。

二二年度の就職活動は既に始まっていますが、昨年度に引き続き、製造業などで事務系の新規採用者数を控える企業もあり、厳しさが続いています。

(就職委員会)

風のモント達

既成事実にも「疑問」を感じて行動。視点を広げて社会活動に参加する

3年 鈴木竜平さん

政策は誰が握っているのか？ 政策は洗脳か？ 「人々のために」は謳い文句に過ぎないのか？

一刺激的なメッセージが並んだ、第30回政策・情報学生交流会。「昔から授業でも、何故この公式が成り立つのか？と、まず疑ってみる性格。同様に、政策によって人々が行動をおこすことにも疑問を抱いてたんですよ」。そう話すのが、交流会総代としてこのメッセージを記した鈴木竜平さん。09年3月に第28回交流会に参加し「他の学生に出会ったことで自分も何かしなければ」と発起、第29回交流会では東北エリアの代表として他大学のメンバーを募るなど奔走した。そして今回の総代。忙しさもマックスだが「色々なことを学べて得していると思う」と笑顔を見せる。

総合政策学部に進んだのも「法学や理学と比べてゴールが見えない政策が面白いと思った」と、これもまた鈴木さんらしい理由。現在は科学技術政策論のゼミに所属し、葛巻町はじめ県内の再生可能エネルギーに対する普及活動を調査している。もちろんここにも



「再生エネルギーが本当に正しいのか？」という疑問がある。

「たとえば今話題の『エコ替え』も、廃棄の段階で発生するCO₂の存在はうやむやにされている。再生可能エネルギーの普及推進は、実は環境対策ではなく経済活性化策になっている。そういう『視点の広がり』もあるってことを伝えたいんです」。

視点の広がりとは、さらなる行動へも結びつく。花巻温泉郷の台温泉の活性化策を考えるマーケティング研究会に応募、関係者や地元有志と討論し調査活動を行った。また経営分析実習では県外の学生と協働で釜石市をフィールドワーク、外からの視点で町の現状について調査・報告した。

「地元のためにとよくいうけれど、本当にそうか。その姿勢にも疑問を感じる」。辛口なコメントは誰よりも地域の問題を真剣に考えているからこそであり、視点の広がりにはあふれだす好奇心の現れだ。そんな鈴木さんの夢はメディアの仕事に就き、自らが体験し見いだした「真実」を伝えていくこと。その準備は着々と整いつつあるようだ。

YMCA ボランティアで国際協力に従事。人と世界を繋ぐ役になりたい

4年 大塚英彦さん

子どもの頃に参加していたYMCAで「楽しさにはまった」大塚英彦さん。大学入学後、盛岡YMCAのボランティアになったのも、楽しさと国際協力への軽い興味からだったという。だが2005年3月に参加したスリランカYMCAのサマーキャンプで、安易な気持ちを吹き飛ばす体験が待っていた。

「訪れたのはスマトラ沖地震（04年12月）の後で、海沿いにはまだガレキと火葬された人骨が散乱していた。なす術のない状態の中でお、僕たちとのレクリエーションに興ずる子どもたちの目の輝きに、自分出来る

ことは何かと考えました。思いは帰国後さらに深まり、国際協力の道に進むことを決意。自主的に英会話を勉強し、国際協力の研修会やセミナーに参加した。「教職の単位取得は、結局半分でやめちゃった」。照れ笑いの中に、道を見つけた人の力強さが光る。



スリランカの後も、YMCAのインターンとして東ティモールでピースキャンプの準備に携わり、またタイでは2年間に渡って活動を行った大塚さん。「東ティモールでは青年と関わり、タイでは子どもたちと一緒に活動を行った。年齢も違うし地域によって抱えている問題も違うけど、彼らに伝えたいことは『ともに成長していこう』ってこと」と話す。人間成長とは、国際組織のYMCAが国際協力活動の根幹に掲げるメッセージ。「ポイントは人の成長にどう関わっていくか。目には見えにくい『変化』を見つけるため、彼らと一緒に活動しているんです。評価主義の国際NGO側からは分かりづらいたらうけど、とにかくやっています」。理屈を並べたより直接触れ合うことが、青少年の心とからだの成長に繋がっていく。それは大塚さん自身が体験してきたことでもある。

2年間のタイ滞在など、寄り道も多かった大学生活。「総合政策学部だからこんなに自由やらせてもらえたのだと思う」と笑う大塚さんの顔はとても満足げだ。そしてこの4月からは、横浜YMCAの職員として新しい挑戦がスタートする。

「僕が海外でやってきたことを国内で伝えたい。目指すは、人と世界の繋ぎ役になることです」。

数理の世界 クレジットカードの リボルビング払い③ Tee KianHeng

第21号および第22号においてリボ払いの定額方式の元利率と元本定率を紹介した。今回は定率方式の元利率と元本定率を紹介する。定率方式は毎月の借入残高（買い物代金）に対して自ら設定した一定の割合を返済する方法である。例えば、毎月の借入残高の5%と利息分を返済するのが元本定率であり、借入残高と利息分の合計の5%を返済するのが元利率である。以後、30万円の買い物をして、借入金利を年率15%とした場合を考える。

元利率の場合、毎月の借入残高と利息分の合計した金額の5%を返済することとなり、30万円に利息分30万円×15%×1/12=3,750円を加えた総額303,750円の5%である15,188円が一回目の返済額となる。残りの残高は303,750-15,188=288,562円となる。次月の返済額は、残高の288,562円に利息分288,562円×15%×1/12=3,607円を加えた総額292,169円の5%である14,608円となる。

一方、元本定率では、30万円の5%である

15,000円に利息分の3,750円（1か月目は元利率と元本定率は同じ利息となる）を加えて総額18,750円が一回目の返済額となる。残りの残高は30万円-15,000円=285,000円となる。次月の返済は残高の285,000円の5%である14,250円に利息分285,000円×15%×1/12=3,563円を加えた総額17,813円の返済となる。

新たな買い物もなく、上記の条件で60ヶ月後には、元利率は元金を270,881円返済し、総利息を88,809円払い、残高が29,119円となる。一方、元本定率は元金を286,179円返済し、総利息を71,545円払い、残高が13,821円となる。

以上の計算から元本定率は元利率と比べて元金の返済が大きいので、次月の利息返済は小さくなること、60ヶ月後に元本定率の残高の方が少なく、支払った利息も少ないことがわかる。

図1は2つの方法の元金返済の経過を、図2は利息支払いの経過を示している。図1からわかるように元本定率は元

利率と比べて最初の22ヶ月では元金返済が大きく、それ以降は小さくなっている。また元利率の元金返済が小さい分残り借入残高が大きいことから、図2より利息の支払いが元本定率と比べて大きいことがわかる。また、両グラフから最後の返済になっても金額が非常に小さくなっているが返済が完了しないことがわかる。これは借入残高の一定割合で返済する定率方式の特徴である。よって一定の返済期間後に一括返済の手続きを取る必要がある。

(本学部准教授・計量経済学)

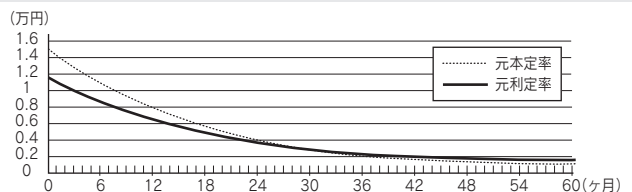


図1 元利率・元本定率の元金返済

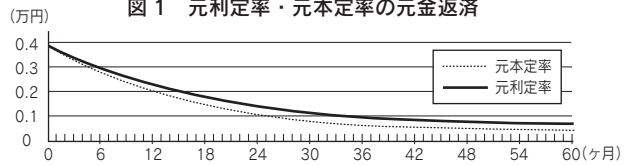


図2 元利率・元本定率の利息返済

人事異動

転出者(3月31日付)

氏名	種別	職名	転出先・備考
幸丸 政明	退職	教授	
山田 一裕	転任	教授	東北工業大学

採用・昇格者(4月1日付)

氏名	種別	職名	前職	分野
渋谷真太郎	採用	教授	林野庁森林整備部研究・保全課	環境政策論
茅野 恒秀	採用	講師	法政大学大学院環境政策研究所	環境社会学・社会調査法
新田 義修	採用	講師	静岡県農林技術研究所	農業経済学・農業経営学
小地沢麻樹	採用	実習助手	岩手県農林水産部森林整備課 臨時職員	(環境政策講座)
栗田 但馬	昇格	准教授	本学部講師	財政学・地域経済論
見市 建	昇格	准教授	本学部講師	国際関係論・東南アジア研究
山本 健	昇格	准教授	本学部講師	ファイナンス論
島田 直明	昇格	講師	本学部助手	景観生態学・自然環境保全論

キャンパス 周辺散策④

賢治の愛した風景 島田直明



岩手を代表する作家・詩人宮沢賢治が岩手山に何度も登山したことは、よく知られていますが、県立大学の最寄り駅である滝沢駅から登り始めたことが多かったと言われていました。滝沢駅を降り、県立大学の横を抜け(当時は放牧地)、柳沢

地区(賢治作品に頻出する場所)で仮眠を取り、翌日未明、岩手山に登りました。その道中の風景を詠んだものに詩「滝沢野」があります。

くわはそくてい ごさ
光波測定の誤差から
から松のしんは徒長し
とちやう
柏の木の鳥瓜ランタン
(以下略)

柏に鳥瓜が絡んでいて、その果実をランタンに見立てているところから、このカシワが放牧地に牛や馬に日陰を提供するため残された単木状のものであることが推定されます。その傍らに賢治が好んでいたカラマツがある風景を詩にしています。このような風景は滝沢駅から柳沢の間では、県立大学の周辺のみだったことが当時の地図から読み取れます。

県立大学周辺を含む岩手山麓の景観を賢治は気に入っていて、何度も歩き、多くの作品として残しました。その事がよく窺える詩「一本木野」の一節を最後に

掲げます。賢治の愛した素敵な景観は、県立大学周辺にまだまだたくさん残っています。そんな風景が今後も残っていくことを願いつつ、賢治作品や大学周辺の風景を楽しんでみませんか。

こんなあかるい穹窿と草を
きゆうりゆう
半日ゆっくり歩くことは
おんけい
いったいなんという恩恵だろう

※現代仮名遣い・漢字にかえました。
※穹窿：弓形に見える天空。大空。
(本学部助手・景観生態学)



大学近くのカラマツ並木と岩手山

●ご意見をお待ちしています

MONTOへのご意見・ご感想・ご要望は、氏名、住所、電話番号を明記の上、「総合政策学部広報・交流委員会」宛てで、下記連絡先まで。電子メール送付(monto@iwate-pu.ac.jp)でも構いません。よろしく願いいたします。

MONTO

●【MONTO】岩手県立大学総合政策学部ニュース Iwate Prefectural University
●第23号：2010年(平成22年)4月6日●発行：公立大学法人岩手県立大学総合政策学部
〒020-0193 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字菓子152-52
代表TEL019-694-2000 学部019-694-2700 FAX019-694-2701(学部事務室)
印刷/株式会社社陵印刷 TEL019-641-8000

《MONTO WEB版》URL

http://www-poly.iwate-pu.ac.jp/monto/index_monto.html

*岩手県立大学のホームページ <http://www.iwate-pu.ac.jp/> から総合政策学部をクリックして、次に「学部機関紙MONTO」をクリックしてもアクセスできます。

●編集後記

▼今回は通学が特集です。みな様々な交通手段で通っています。今までは速く安全に、でしたが、これからは環境にも配慮しなければなりません。(公共交通派)▼このたびは読者アンケートにご協力ありがとうございました。読者のみなさまの声はわれわれ大学教員にとっても励みです。次回もお願いします。(丸丸虫)▼本数の少ないバス、専用道路のない自転車、加えて街灯のない道を歩かされるなど、本学の通学環境の向上に課題が見えました。(C)▼▼なるほど、とったり、意外に感じたり、と私も改めて本学の通学事情について知ることでました。どうぞお楽しみください。(の)▼温室効果ガスの大幅削減目標が国際公約として掲げられました。そろそろマイカー通学の是非を問うべき時期が来ているのではないのでしょうか。(C)▼通学という当たり前のことを毎日当たり前にするのが容易でない。ましてや遠いと。でも社会に出ていくと絶対に活きてくる。同世代?の先輩より。(TKO)▼今回の風のモント達では、対外的に積極的に活動している方を取り上げました。様々な活動がしやすい環境を整えていきたいものです。(なつ)

●編集スタッフ▶元田良孝(編集責任者)、高嶋裕一、斎藤千加子、小井田信雄、山本 健、栗田但馬、島田直明

●写真取材協力▶宇佐美誠史

●記事中の職位・学年は二〇一〇年三月現在のものです。